

ネットワーク 市・医師会・保健所 地域住民

5 健康のつどい「ときめきクラブ」

住み慣れた地域の中で虚弱な老人や独居老人などが、地域の人たちとの触れ合いを通してより豊かな生活を送ってもらおうと、市、医師会、保健所と地域住民(ボランティア)が一体となつて、ねたきり予防に取り組みを進めている在宅ケアです。今年度は桃園・室町をモデル地区とし、自力では外出困難で家に閉じこもりがちな人を対象に昨年10月から行っています。

月2回、ボランティアの通所介助で地域の会館へ送迎し、理学療法士、保健婦の指導のもとゲームや軽体操、健康相談などを行っています。

ボランティアでお年寄りの通所介助をする傍ら一緒にリハビリをしているという室町の磯林英三さん、開成浩二さんらは「最初は義理で来る人が多く、自然消滅するのでは心配しました。しかし、会話が弾み、和やかで笑い声が絶えない楽しい集いになっていくためか、回を重ねることに参加者が増えていきました。動かさなかつた指が軽体操で動き、みんなから拍手を受ける人などを見ていくうちに、自分のことのようにうれしく思っています。今後、このような取り組みが市内に広がり、根付いていけば、住み慣れた地域で老後を健やかに過ごせるのではないのでしょうか」と話してくれました。

住み慣れた地域で老後を健やかに

行政と地域で共に支える在宅ケア



▲理学療法士の指導のもと、地域の人たちと一緒に軽体操を通して楽しいひとときを(健康のつどい「ときめきクラブ」、姫室・室町会館)。

ボランティアの人たちの通所介助で帰宅。

3年度 地域ぐるみでリハビリ

行政と地域でネットワーク

平成3年度には、さらに新しい訓練教室を加え、地域リハビリをシステム化し、在宅ケアの充実を図りました。人と人の交流を通して、孤独を解消し、意欲的な生活が送れるよう新たに「わくわく訓練教室」を設けま

平成3年度には、厚生省が21世紀の高齢化社会に向けてすべての人々が健康で生きがいを持つ、安心して生活を過ごせるような社会にと、打ち出した「高齢者保健福祉推進10ヵ年戦略(ゴールドプラン)」のモデル事業の委託を受けました。同モデル事業では対象者がより人間らしく生きがいを持った生活を送るには、人と人の交流が大切であり、家に閉じこもりがちな生活から外に出ることが、それが社会性を取り戻す第一歩に繋がります。このため、いきいき訓練教室を行いました。

昭和50年から

本市では、ねたきりやお年寄りを減少し、住み慣れた地域で老後を健やかに過ごしてもらおうと、昭和50年4月、大阪府の医療ヘルパー制度の最初のモデル市として、訪問看護を開始し、全国に先駆けて、ねたきり老人などの在宅ケアを進めてきました。その後、保健婦、看護婦による訪問指導と発展させ、平成2年度には177人に対して1、3、6、6回の訪問指導と看護を実施するに至りました。

7人の内6人の身心機能が好転

訪問リハビリ実施

本市は平成元年10月に大阪府から「在宅ケア推進モデル調査事業」の委託を受け、これまでの訪問指導と看護に加え、訪問リハビリを実施しました。これは、看護婦、保健婦、理学療法士らが入院中から病院や家庭と

1 訪問リハビリ

理学療法士が外出不可能な人の自宅に訪問し、手すりの設置など住宅環境や補助具のアドバイス、運動プログラムの提供、家族への介助方法の指導などを行っています。平成2年11月から理学療法士の指導のもと、自宅リハビリを始めた旭丘3丁目の山下さきさん(79歳)は毎日欠かさず楽しみながら、腹筋運動、立つ練習など4項目の運動プログラムをこなしています。「今では、転ぶことなく歩くことができます。また、食事もおいしく、毎日が楽しいです」と話しています。

ねたきり老人など介護を要する老人のケアは社会的にも大きな問題になりつつあります。厚生省の「高齢者保健福祉推進10ヵ年戦略(ゴールドプラン)」などで在宅福祉の充実がうたわれるなど高齢者の保健福祉対策を巡る動きは著しいものがあります。

2年度 人と人との交流を

いきいき訓練教室

平成2年度には、虚弱な老人や独居老人などが、地域の人たちとの触れ合いを通してより豊かな生活を送ってもらおうと、市、医師会、保健所と地域住民(ボランティア)が一体となつて、ねたきり予防に取り組みを進めている在宅ケアです。今年度は桃園・室町をモデル地区とし、自力では外出困難で家に閉じこもりがちな人を対象に昨年10月から行っています。

2 小集団機能訓練

いきいき訓練教室

自力で外出困難な人を対象に看護婦が同乗した福祉タクシーで送迎サービスを行い、医療センターで機能訓練を行っています。理学療法士の指導により体操、筋力増強訓練など運動療法を行い、独りで歩けるようになった人への老人保健法の機能訓練事業への参加を促しています。

3 老健法「機能訓練」

自力通所が可能なお年寄りを対象に、医療センターで、理学療法士の作成した個人プログラムに沿って、運動療法を行っています。また、月1回は交流会を兼ねてレクリエーションなどの集団活動も行っています。

4 小集団機能訓練

「わくわく訓練教室」

手指や腕が動きにくい人や集団での交流が必要な人を対象に、送迎サービスを行い、医療センターで機能訓練を行っています。理学療法士、保健婦の指導により、作業療法士、保健婦の指導により、レクリエーション、集団交流、作業療法を行っています。歌やゲームなど和やかな雰囲気の中で、その後、出席者の障害の程度に応じた個別プログラムに沿って訓練が行われます。

5 健康のつどい

「ときめきクラブ」

月2回、ボランティアの通所介助で地域の会館へ送迎し、理学療法士、保健婦の指導のもとゲームや軽体操、健康相談などを行っています。

地域ぐるみで

広げよう在宅ケア

いつまでも健康でありたいという人は、すべての人の願いであるはずですが、ところが、障害を受けたり、人目を避け、一日中ベッドの上で安静にしてねたきりや多量の尿が現状というお年寄りが多くなっています。お年寄りが孤独にならないように、生活の中で役割を奪わず家庭の中で存在感を認めあげることが大切であり、より残された機能を工夫や努力によって活用し、前向きに自立した生活を送れるよう支援することが在宅ケアの目指すところです。

ねたきり予防に向けて、市はお年寄りや家族との同じ視点に立つて地域の家族と協力を得ながら在宅ケアの推進に向けて努力してまいります。必ず迎える老後を市民一人ひとりが自分のこととして捕らえ、行政と地域で共によりよい老後の在り方を考えていきたいと思います。



池田城の攻防II

池田城を巡る争乱

前回は池田氏の隆盛と応仁の乱を中心に紹介しました。今回は戦国時代の池田城を巡る争いについて紹介します。

永正5年(1508)、細川澄元と高国に起こった家督争いは、再び池田城落城という惨禍をもたらしました。摂津のほとんどの国人たちが高国に付いたにもかかわらず、池田氏のみがこれに敵対しました。同年5月、高国の総攻撃の前に、城主池田貞正以下主だった一族が自害し、落城しました。

同1519年、澄元の反撃に呼応し、有馬に逃げたいた貞正の嫡子池田三郎五郎(久宗)が有馬・田中城に挙兵しました。高国は池田城へ入りこれに對峙しましたが、同17年正月、澄元と戦い、近江に敗走します。ここに池田氏の10年未だの再興の悲願が実り、みたび池田城を回復することになりました。

同時に久宗は、一連の働きによって、澄元の嫡子晴元に重用され、将軍の直動御家人という待遇を受けるまでになりました。

ところが、摂津の有力国人としての地位を確立した池田氏としては、数々にわたる落城、度重なる戦禍とこの間に支払った代償はあまりにも大きく、結局国人から戦国大名へ成り上がる機を逸してしまっていたのです。

池田城の回復

永正5年(1508)、細川澄元と高国に起こった家督争いは、再び池田城落城という惨禍をもたらしました。摂津のほとんどの国人たちが高国に付いたにもかかわらず、池田氏のみがこれに敵対しました。同年5月、高国の総攻撃の前に、城主池田貞正以下主だった一族が自害し、落城しました。

同1519年、澄元の反撃に呼応し、有馬に逃げたいた貞正の嫡子池田三郎五郎(久宗)が有馬・田中城に挙兵しました。高国は池田城へ入りこれに對峙しましたが、同17年正月、澄元と戦い、近江に敗走します。ここに池田氏の10年未だの再興の悲願が実り、みたび池田城を回復することになりました。

同時に久宗は、一連の働きによって、澄元の嫡子晴元に重用され、将軍の直動御家人という待遇を受けるまでになりました。

ところが、摂津の有力国人としての地位を確立した池田氏としては、数々にわたる落城、度重なる戦禍とこの間に支払った代償はあまりにも大きく、結局国人から戦国大名へ成り上がる機を逸してしまっていたのです。

信長 池田へ

当時の池田氏の様子をイエズス会の宣教師、ルイス・フロイスが自著「日本史」の中で次のように述べています。「池田殿の家は天下に高名あり、必要であればいつでも、五畿内きつての極めて優秀な、装備万全な一万の兵を戦いに繰り出したものであった」と。ところが、信正、長正、勝正と続いた池田氏は、直に面することになります。三好三人衆の下で武將級の地位を確保していた池田氏は、最大、最強の敵に当たることになったのです。

永禄11年(1568)9月30日、織田信長が池田勝正を攻めため、池田に奉じて上洛した信長は、山城の勝竜寺城(現長岡京市)を皮切りに、一気に摂津の攻略に着手しました。破竹の勢いの信長の前に、摂津のほとんどの武將が、戦わずして屈しています。ところが、勝正だけは三好三人衆方の面目にかけて抗戦にました。池田氏だけがその存亡を分け、信長という強大な勢力に敢然と立ち向かったのです。この姿には、摂津の覇者としての意気込みが見て取れますが、状況は勝正が考えていたほど悠長なものではなかったのです。池田城を開

池田氏の滅亡

信長の軍門に下つた池田氏は、その手駒として休む間もなく、転戦に次ぐ転戦を余儀なくされました。元禄元年(1570)、疲弊きつた池田氏は、配下の荒木村重の台頭で、あまりにもはかなくついさがることになりました。天正2年(1574)、村重は、池田氏が果たそうとして果たし切れなかつた戦国大名に成り上がります。皮肉にも池田氏の家臣が身を起こしてのことでした。

村重は信長の命により、その居城を池田城から伊丹・有岡城へ移すことになりました。この時点で、15世紀には築城されたと考えられる池田城は廃城となり、その命脈を断つたのです。天正6年(1578)10月、村重は信長に敵対する本願寺に通じ、反旗を翻しました。これを知った信長は同年12月、有岡城を攻めるため再び池田の地に足を運び、廃城となつた池田城に陣を構えたのです。翌年11月には有岡城も落城しました。

おじやま ちよつと

池田駅から山手へ。駅前公園を通り抜け、市役所、警察署を過ぎて約8分、旧能勢街道に沿って東へ曲がると、道は上り道に配になる。北側に美しい土塀の続く池田文庫が、静かなたたずまいの中に姿を見せる。

阪急東宝グループの創設者で、商工大臣も務めた故小林一三氏の蔵書を基に昭和24年開館した図書館だ。

「歌舞伎の美」を伝える芝居錦絵、20世紀初頭のバリ・レビューのポスター、また、江戸、近代文学の希少なコレクションなど、貴重な演劇、文芸資料を収蔵。芸術の過去と現在を見つめる池田文庫(財団法人阪急学園経営)を訪ねる。

池田文庫の前身は宝塚文芸図書館。一三氏は若冠33歳で箕面有馬電気軌道(現阪急電鉄)を創設。明治43年(1908)開通した。氏はその終点・宝塚で明治44年、家族向けレクリエーションセンター・宝塚新温泉の経営に乗り

開かれた文化の窓

阪急学園 池田文庫

木造平家建て。この建物は同60年11月、第5回大阪府市景観建築賞で、4枚の花弁を表現した優美さと、シレン構造屋根の美しさが評価され、奨励賞を受けた。

同文庫には現在、10万冊を超える蔵書がある。文芸、演劇関係が主で、その6割程は映画、演劇、美術、文学に分類される。近代文学初版本も数多くあり、雑誌や週刊紙は、明治末年ごろのものも合冊の上保存されている。

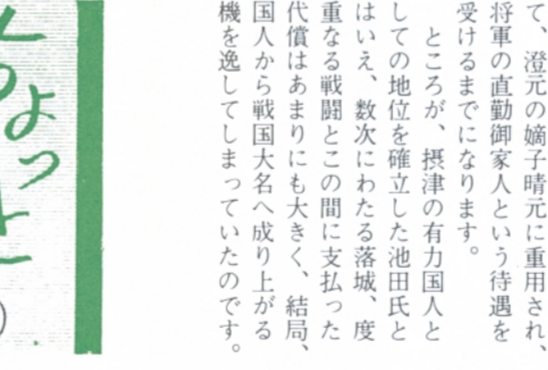
特殊コレクションも豊富で、歌舞伎の人氣役者の似顔絵を描いた芝居錦絵や、名場面を華麗に描いた芝居絵巻などを多数所蔵。国の内外で高い評価を受けている。このほか、宝塚歌劇や阪急電鉄の資料、ポスター類も取っている。これらの特殊コレクションは年4回程度、それぞれテーマを決めて展示。このときだけ一般公開している。また、テーマに関連した講演会も同時に開いている。

同文庫では今、終生、映画・演劇に情熱を注いだ小林一三氏の独特の演劇論を尋ねる展覧会を開いている。2月9日まで、入場料200円。開館は午前9時30分から午後5時。2月3日と5日は休み。問い合わせは同文庫(51・3185)。

織田信長画像

(長興寺蔵)

皆さんは、織田信長は教科書やお小説だけに出てくる人物だと思っただけでいいでしょうか。実は池田の歴史に大きな転機をもたらしたのが、信長その人だったのです。



出、大正3年には宝塚少女歌劇を上演した。この歌劇上演の資料となる図書の収集、一般への読書指導のため、新温泉内に図書室を設置。昭和7年1月1日、宝塚文芸図書館として開館した。音楽や演劇、美術、文学を中心に図書資料が集められた。現在の文庫にある稀覯本(きこうぼん)貴重書籍、歌舞伎関係の資料は主としてこの時期に集められたものだ。

戦後、池田に住んでいた一三氏は、かねてからの地に文化事業の構想を持っており、まず図書館の設置にあたった。旧池田師範附属小学校跡地を買収し、図書館・池田文庫を建設。昭和24年4月26日開館させた。すべて校舎の廃材を活用した閲覧室は、木造平家建て。この建物は同60年11月、第5回大阪府市景観建築賞で、4枚の花弁を表現した優美さと、シレン構造屋根の美しさが評価され、奨励賞を受けた。

同文庫には現在、10万冊を超える蔵書がある。文芸、演劇関係が主で、その6割程は映画、演劇、美術、文学に分類される。近代文学初版本も数多くあり、雑誌や週刊紙は、明治末年ごろのものも合冊の上保存されている。

特殊コレクションも豊富で、歌舞伎の人氣役者の似顔絵を描いた芝居錦絵や、名場面を華麗に描いた芝居絵巻などを多数所蔵。国の内外で高い評価を受けている。このほか、宝塚歌劇や阪急電鉄の資料、ポスター類も取っている。これらの特殊コレクションは年4回程度、それぞれテーマを決めて展示。このときだけ一般公開している。また、テーマに関連した講演会も同時に開いている。

同文庫では今、終生、映画・演劇に情熱を注いだ小林一三氏の独特の演劇論を尋ねる展覧会を開いている。2月9日まで、入場料200円。開館は午前9時30分から午後5時。2月3日と5日は休み。問い合わせは同文庫(51・3185)。



池田城を巡る争乱

永正5年(1508)、細川澄元と高国に起こった家督争いは、再び池田城落城という惨禍をもたらしました。摂津のほとんどの国人たちが高国に付いたにもかかわらず、池田氏のみがこれに敵対しました。同年5月、高国の総攻撃の前に、城主池田貞正以下主だった一族が自害し、落城しました。

同1519年、澄元の反撃に呼応し、有馬に逃げたいた貞正の嫡子池田三郎五郎(久宗)が有馬・田中城に挙兵しました。高国は池田城へ入りこれに對峙しましたが、同17年正月、澄元と戦い、近江に敗走します。ここに池田氏の10年未だの再興の悲願が実り、みたび池田城を回復することになりました。

同時に久宗は、一連の働きによって、澄元の嫡子晴元に重用され、将軍の直動御家人という待遇を受けるまでになりました。

ところが、摂津の有力国人としての地位を確立した池田氏としては、数々にわたる落城、度重なる戦禍とこの間に支払った代償はあまりにも大きく、結局国人から戦国大名へ成り上がる機を逸してしまっていたのです。

信長 池田へ

当時の池田氏の様子をイエズス会の宣教師、ルイス・フロイスが自著「日本史」の中で次のように述べています。「池田殿の家は天下に高名あり、必要であればいつでも、五畿内きつての極めて優秀な、装備万全な一万の兵を戦いに繰り出したものであった」と。ところが、信正、長正、勝正と続いた池田氏は、直に面することになります。三好三人衆の下で武將級の地位を確保していた池田氏は、最大、最強の敵に当たることになったのです。

永禄11年(1568)9月30日、織田信長が池田勝正を攻めため、池田に奉じて上洛した信長は、山城の勝竜寺城(現長岡京市)を皮切りに、一気に摂津の攻略に着手しました。破竹の勢いの信長の前に、摂津のほとんどの武將が、戦わずして屈しています。ところが、勝正だけは三好三人衆方の面目にかけて抗戦にました。池田氏だけがその存亡を分け、信長という強大な勢力に敢然と立ち向かったのです。この姿には、摂津の覇者としての意気込みが見て取れますが、状況は勝正が考えていたほど悠長なものではなかったのです。池田城を開

池田氏の滅亡

信長の軍門に下つた池田氏は、その手駒として休む間もなく、転戦に次ぐ転戦を余儀なくされました。元禄元年(1570)、疲弊きつた池田氏は、配下の荒木村重の台頭で、あまりにもはかなくついさがることになりました。天正2年(1574)、村重は、池田氏が果たそうとして果たし切れなかつた戦国大名に成り上がります。皮肉にも池田氏の家臣が身を起こしてのことでした。

村重は信長の命により、その居城を池田城から伊丹・有岡城へ移すことになりました。この時点で、15世紀には築城されたと考えられる池田城は廃城となり、その命脈を断つたのです。天正6年(1578)10月、村重は信長に敵対する本願寺に通じ、反旗を翻しました。これを知った信長は同年12月、有岡城を攻めるため再び池田の地に足を運び、廃城となつた池田城に陣を構えたのです。翌年11月には有岡城も落城しました。

おじやま ちよつと

池田駅から山手へ。駅前公園を通り抜け、市役所、警察署を過ぎて約8分、旧能勢街道に沿って東へ曲がると、道は上り道に配になる。北側に美しい土塀の続く池田文庫が、静かなたたずまいの中に姿を見せる。

阪急東宝グループの創設者で、商工大臣も務めた故小林一三氏の蔵書を基に昭和24年開館した図書館だ。

「歌舞伎の美」を伝える芝居錦絵、20世紀初頭のバリ・レビューのポスター、また、江戸、近代文学の希少なコレクションなど、貴重な演劇、文芸資料を収蔵。芸術の過去と現在を見つめる池田文庫(財団法人阪急学園経営)を訪ねる。

池田文庫の前身は宝塚文芸図書館。一三氏は若冠33歳で箕面有馬電気軌道(現阪急電鉄)を創設。明治43年(1908)開通した。氏はその終点・宝塚で明治44年、家族向けレクリエーションセンター・宝塚新温泉の経営に乗り

開かれた文化の窓

阪急学園 池田文庫

木造平家建て。この建物は同60年11月、第5回大阪府市景観建築賞で、4枚の花弁を表現した優美さと、シレン構造屋根の美しさが評価され、奨励賞を受けた。

同文庫には現在、10万冊を超える蔵書がある。文芸、演劇関係が主で、その6割程は映画、演劇、美術、文学に分類される。近代文学初版本も数多くあり、雑誌や週刊紙は、明治末年ごろのものも合冊の上保存されている。

特殊コレクションも豊富で、歌舞伎の人氣役者の似顔絵を描いた芝居錦絵や、名場面を華麗に描いた芝居絵巻などを多数所蔵。国の内外で高い評価を受けている。このほか、宝塚歌劇や阪急電鉄の資料、ポスター類も取っている。これらの特殊コレクションは年4回程度、それぞれテーマを決めて展示。このときだけ一般公開している。また、テーマに関連した講演会も同時に開いている。

同文庫では今、終生、映画・演劇に情熱を注いだ小林一三氏の独特の演劇論を尋ねる展覧会を開いている。2月9日まで、入場料200円。開館は午前9時30分から午後5時。2月3日と5日は休み。問い合わせは同文庫(51・3185)。

織田信長画像

(長興寺蔵)

皆さんは、織田信長は教科書やお小説だけに出てくる人物だと思っただけでいいでしょうか。実は池田の歴史に大きな転機をもたらしたのが、信長その人だったのです。

